

統合失調症の認知機能障害と薬物治療

—アウトカムの向上を目指して—

富山大学付属病院
診療教授 住吉 太幹

統合失調症患者では、学習記憶、ワーキングメモリー、遂行機能、注意、語流暢性、情報処理速度などの認知機能領域を反映する神経心理学的検査成績が、健常者と比べ1-2SD程度低下している。この認知機能障害は、就労など患者の社会機能や転帰に大きな影響をおよぼす。このような背景から、認知機能の体系的な評価法の整備が近年進められてきた。例えば、包括的なテストバッテリーである MATRICS Consensus Cognitive Battery が米国の NIH を中心に開発され、その日本語版の標準化作業や予備的な研究が本邦でも始まっている。

これら認知機能障害の生物学的基盤として、脳機能・形態の疾患特異的な変化が注目される。その検出には、空間分解能が高い機能的核磁気共鳴法やポジトロン断層法による脳機能画像が用いられることもある。一方、脳波や脳磁図は時間分解能に優れ、特に事象関連電位 (ERPs) などの電気生理学的マーカーは、統合失調症の認知機能障害の客観的な指標とされ、薬物治療による変化を鋭敏に捉えることができる。われわれは、P300 やミスマッチ陰性電位など ERPs の発生源電流密度の三次元分布を画像化し、向精神薬による変化や神経心理学的指標との関連を検討してきた。

第二世代 (非定型) 抗精神病薬の臨床効果などに基づき、各種セロトニン (5-HT) 受容体サブタイプの認知機能への関与が注目されてきた。このうち、5-HT_{1A} 受容体は 5-HT 神経細胞体がある縫線核の他、統合失調症の病態生理と関連が深い前頭前野、海馬、嗅内皮質、扁桃体などに多く存在する。われわれは 5-HT_{1A} 受容体アゴニスト作用を有する向精神薬投与が、統合失調症患者の言語記憶、遂行機能、注意/情報処理機能などの認知機能領域や QOL を改善し、前頭前野における P300 電流密度を増加させることを報告してきた。これらの所見が、新規の抗精神病薬や認知機能増強薬の開発を促し、患者の長期予後向上を目指した治療法開発の発展に寄与することが期待される。

略 歴

住吉 太幹 (すみよし とみき)

1989年 金沢大学医学部医学科卒業

1993年 金沢大学大学院医学研究科同博士課程修了

1993年 米国ケースウエスタンリザーヴ大学医学部精神科研究員
(国際ロータリー財団奨学生)

1995年 埼玉医科大学附属病院精神科 助手

1996年 富山医科薬科大学附属病院神経科精神科 助手

2000年 同 講師

2007年 富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座 准教授 (現在に至る)

2009年 富山大学附属病院神経精神科 診療教授 (併任) (現在に至る)

2000年 アメリカ合衆国ヴァンダービルト大学医学部精神科 客員教授 (2002年まで)
(文部科学省長期在外研究員)

(受 賞)

1995 および 2001年 National Alliance for Research on Schizophrenia and Depression,
Young Investigator Award

2001年 American College of Neuropsychopharmacology, Memorial Award

1996年 日本生物学的精神医学会 学術賞

2008年 日本臨床精神神経薬理学会 学会奨励賞

(研究分野)

生物学的精神医学、神経精神薬理学、認知脳科学

(主な所属学会)

World Federation of Societies of Biological Psychiatry, Society for Neuroscience,
Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, Schizophrenia
International Research Society

日本精神神経学会 (評議員、専門医、指導医)、日本臨床精神神経薬理学会 (評議員、
専門医、指導医)、日本神経精神薬理学会 (評議員)、日本生物学的精神医学会 (評議員、
学術賞選考委員、国際学会発表奨励賞選考委員)、日本統合失調症学会 (評議員)、日本
脳科学会 (評議員)、日本精神保健・予防学会 (評議員)

(社会活動)

- World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP) - 2nd WFSBP Asia-Pacific Congress, Organizing Committee 委員 (Treasurer)(2007-2008 年)
- 日本精神神経学会 精神科専門医制度 面接委員(2009 年)